

8回生 溝上泰一朗さん



繊細な技術を要する

脳の手術で人を助ける

- 1991年 4月 弘学館中学校入学
- 1997年 3月 弘学館高等学校卒業
- 1997年 4月 久留米大学医学部入学
- 2003年 4月 日本赤十字医療センター
- 2011年 9月 福岡大学筑紫病院
- 2013年 11月 佐賀県医療センター好生館
(いずれも脳神経外科)

(2019年1月現在)



好生館脳神経外科スタッフと

脳神経外科医として…

～知識と技術と体力と～

脳神経外科は、おもに脳の病気を手術で治す治療科です。脳神経や脳血管は非常に繊細であるため、その手術には高度な技術はもちろんのこと、体力、そして豊富な知識が必要とされます。何と言っても「自らの手で人を傷つけてしまう可能性がある」ので常に重い責任が伴います。中学・高校・大学では好きな趣味(バンドやDJ)を中心に生きていたため、医師になりたての頃は、到底自分が脳神経外科医になれる自信はありませんでした。しかし、自分の経験や技術を使って、人の命を救えたという感覚は何事にもかえがたく、自分にできることをコツコツ積み上げていく中で、一人前になれたと思います。(とはいえ、医師として学ぶべきことはまだまだたくさんあります。)医師という職業は、人生をかけて情熱を注ぎ込むだけの価値のある職業だと感じています。

故郷で医師をする

ということ。

私は久留米大学を卒業後、最初の11年は東京と福岡で脳神経外科、脳血管内治療を勉強しました。おそらく医師という職業は、自分の意識と技術があれば、地方でも十分に質の高い医療を提供することができます。特に救急医療を中心とする病院連携などは、東京よりも佐賀の方が進んでいる印象です。同じ患者さんのために働くのであれば、自分を育ててくれた故郷の人達のために働きたいと思い、5年前から佐賀県医療センター好生館の脳神経外科に勤務させていただいています。おかげさまで、特に力を入れて関わらせていただいている、急性期脳梗塞のカテーテルによる血栓回収治療件数では佐賀県は人口あたりの治療件数が2年連続全国2位になりました。自分の地域のために仕事をできることも、歳を重ねるとともに喜びになっています。

溝上泰一朗さんのとある一日

7:00 学術業務

8:00 カンファレンス

9:00 手術

15:00 病棟管理

回診

17:00 事務業務

20:00 帰宅

後輩へのメッセージ

不謹慎に聞こえるかもしれませんが、手術というのは、学力のみならず、作品を創造し形にするアートに通じる部分、決断力や勝負強さなどスポーツに通じる部分(ちなみに僕はスポーツは苦手でした。)が必要とされます。私の場合は、学生時代に熱中した音楽や映画が今の仕事に役立っています。皆さんも、勉強のみならず、学生時代に熱中できることをしっかり見つけ、向き合うことは今後の人生や仕事にもきっと生きてきます。弘学館は自分を見つめる、青春時代を過ごせる学校だと思います。